

## 狭山市所蔵美術品展

# 身近な美の再発見



盆田　省「アメリカ村の猫たち」

平成7年3月25日(土)～5月7日(日)



狹山市立博物館

〒350-13 狹山市稻荷山1-23-1 稲荷山公園(ハイドパーク)内

TEL. 0429-55-3804(代表) FAX. 0429-55-3811

■交通／西武池袋線「稻荷山公園駅」から徒歩3分

# 狭山市所蔵美術品展 身近な美の再発見



▲伊藤 亘「あした」

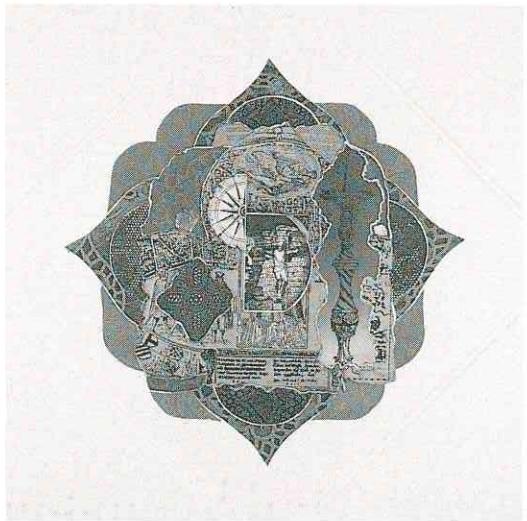
## 開催にあたって

人間川の清流に育まれ緑豊かな狭山市は、田園都市から住宅・工業都市へと移行しつつも今なお武蔵野の自然を色濃く残しています。こうした環境の中、市では「緑と健康で豊かな文化都市」を基調としたまちづくりを進めています。

文化的な面においては、公共施設へのモニュメントの設置や美術作品の受入れなどを行い、特に潤いのあるまちづくりを進めるため「美術品等取得基金」を設置し、平成元年度から積極的に毎年度美術作品を購入するなどして、数多くの作品が市内の公共施設に展示されています。

今回の展示会では、市が所蔵する美術作品のうち「美術品等取得基金」で購入した作品28点を展示いたします。普段何気なく接している創造性豊かな作品を改めてご覧いただくことで、今後のみなさまの文化活動、そしてみなさま一人ひとりが参加する潤いのあるまちづくりの一助になれば幸いです。

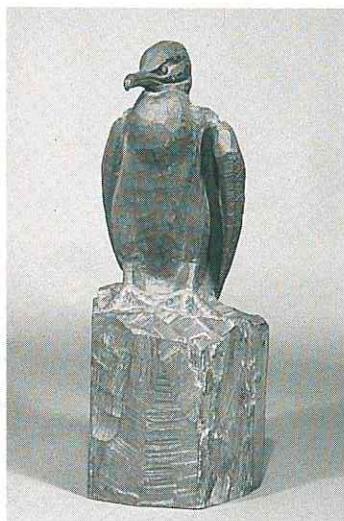
狭山市立博物館



▲青木 照雄「聖 祭」



▲植野 瑛子「80年代A家の肖像」



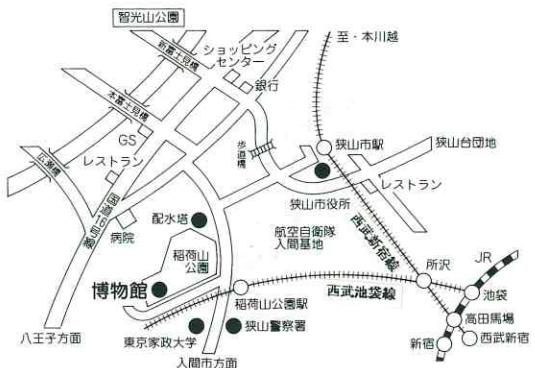
▲三木 貞夫「鶴」

■開館時間 午前9時～午後5時

■休館日 3/27、4/3・10・17・24・28、5/1

■入館料 一般150円(100円)高校生・大学生100円(60円)

小学生・中学生50円(30円) ( )内は20名以上の団体



▲小椋 均「雪どけ」



狹山市立博物館

〒350-13 狹山市稻荷山1-23-1 稲荷山公園(ハイドパーク)内

TEL. (0429)55-3804(代表) FAX. (0429)55-3811 西武池袋線「稻荷山公園駅」から徒歩3分

## 狭山市所蔵美術品展

# 身近な美の再発見



盆出 省「アメリカ村の猫たち」

平成7年3月25日(土)～5月7日(日)



狹山市立博物館

## 開催にあたって

入間川の清流に育まれ緑豊かな狭山市は、田園都市から住宅・工業都市へと移行しつつも今なお武蔵野の自然を色濃く残しています。こうした環境の中、市では「緑と健康で豊かな文化都市」を基調としたまちづくりを進めています。

文化的な面においては、公共施設へのモニュメントの設置や美術作品の受入れなどを行い、特に潤いのあるまちづくりを進めるため「美術品等取得基金」を設置し、平成元年度から積極的に毎年度美術作品を購入するなどして、数多くの作品が市内の公共施設に展示されています。

今回の展示会では、市が所蔵する美術作品のうち「美術品等取得基金」で購入した作品28点を展示いたします。普段何気なく接している創造性豊かな作品を改めてご覧いただくことで、今後のみなさまの文化活動、そしてみなさま一人ひとりが参加する潤いのあるまちづくりの一助になれば幸いです。

平成7年3月25日

狹山市立博物館

### 〈凡例〉

1. 図版は、洋画、日本画、版画、彫刻、工芸、その他の順で掲載した。
2. 寸法はセンチメートルを単位とし、平面の場合は、たて×よこ、立体の場合は、高さまたは直径で示した。
3. このパンフレットに記載されている番号と展示作品の番号は一致する。ただし、展示の順序とは限らない。

## **狹山市美術品等取得基金について**

この基金は、昭和61年「故郷のために役立ちたい」という、狹山市狹山出身の故粕谷満辰氏の遺志を継いで、弟の一男氏（東京都在住）が市に寄付された遺産の一部をもとに設置したものです。

市では寄付者の崇高な遺志を尊重し、この基金を生かして潤いのあるまちづくりのため、美術品等を取得しております。

# 作品・作者紹介

①

《雪どけ》 1991年

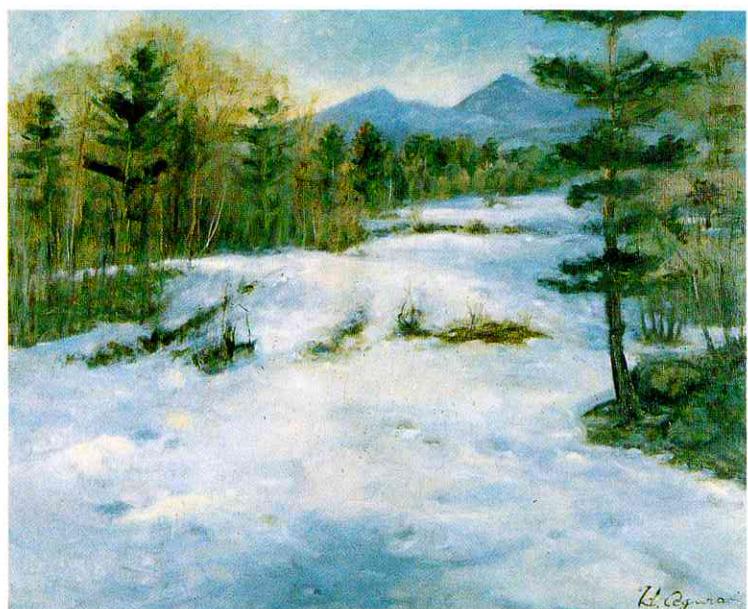
油彩・キャンバス 60.6×72.7

小椋 均 1933～

福島県生まれ。研究所でデザインを学び、後油絵に転じ武蔵野美術大学で三雲祥之助、井上長三郎を知る。福島県展、埼玉県展、会津秀作美術展等に出品。1968年より日本アンデパンダン展に出品を続ける。埼玉平和展、瀬西美術会結成に参加。

本作品は、雪深い里にも三月の声きけば必ず大地から春の鼓動が聞こえる素朴な風景に親しみを感じ描いたもの。

(平成3年度購入)



②

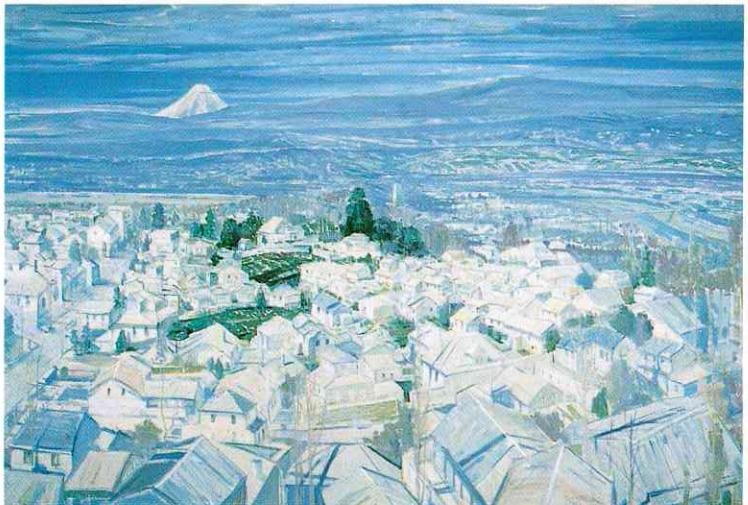
### 《遠い世界からの報告》 1989年

油彩・キャンバス 129.5×193.0

フー シャンツエン  
胡 項城 1950～

中国上海生まれ。1958年上海美術学校長孟光に師事。1976年上海戲劇大学美術学部卒業。1976～86年中国五大学で教職活動。その間古美術（チベット、シルクロード、敦煌、漢画像等）研究。1986年以降、狹山市、香港芸術センター、京都市、福井、埼玉、上海の各美術館、銀座、シカゴ、狹山彫刻の庭ギャラリー等で個展20数回。現在、南アフリカ居住、制作活動をしている。

(平成2年度購入)



③

### 《入間川の秋》 1991年

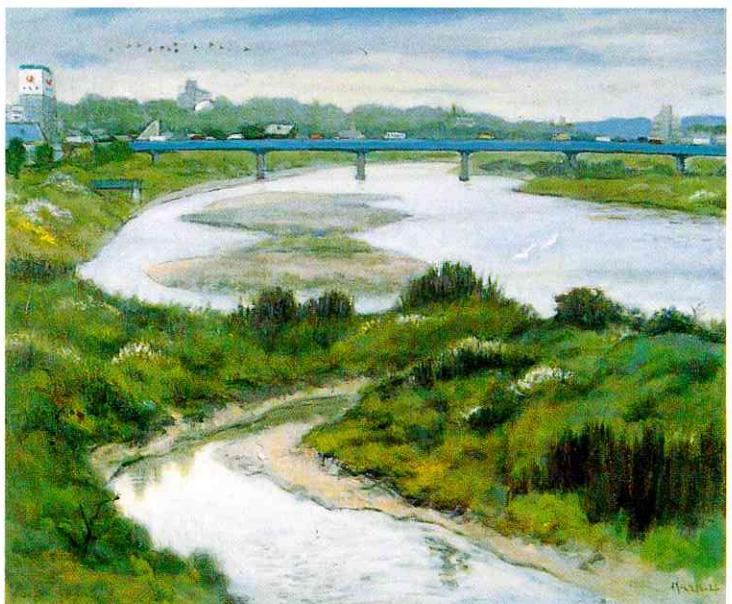
油彩・キャンバス 60.0×72.0

くらもと かつみ  
倉本 勝巳 1921～

広島県生まれ。19歳広島県美術展に入選「市長賞」を受賞。38歳上京。1987年サロン・ド・デュテスに出品「銀賞」、翌年「銅賞」を受賞。1990年一創会にて受賞。1994年中央公民館に於いて「狹山百景展」を開催好評を博す。目下狹山市、所沢市の公民館にて絵画指導を行っている。

現在は日本の思考様式を模索中。一創会会員。日本美術家連盟会員。狹山市美術家協会顧問。

(平成3年度購入)



④

### 《水都“サンジョルジョ・マジョーレ島”》 1991年

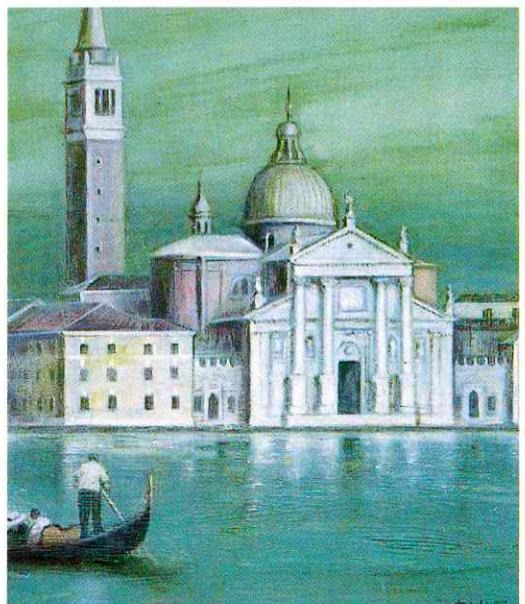
油彩・キャンバス 53.0×45.0

しみず てるこ  
清水 照子 1930～

東京生まれ。阿佐ヶ谷美術研究所に学ぶ。20歳で一線美術会に入会、現在に至る。一陽会荻野康児、一線会岩井彌一郎に学び具象、抽象、と転じる。

様式的な中世の町イタリアに魅かれ創られた空想する石舞台の町をモチーフとして取り組んでいる。現在一線美術委員。同審査員。

(平成3年度購入)



⑤

### 《望郷》 1989年

油彩・キャンバス 30.7×40.0

柏 敬子 1949～

大阪府生まれ。創形美術学校に学ぶ。育児で一時、創作活動を中断。31歳から創作活動を始める。埼玉県展、女流画家協会展、独立美術協会展に出品（県知事賞、女流画家協会展特別賞他受賞）。

20代の頃から、現実への想像力から創造性を編み出しながら、詩の立ち上がる絵を描きたいと想っている。

（平成3年度購入）



⑥

### 《アメリカ村の猫たち》 不明

墨、水彩、コラージュ・和紙 110.0×160.5

盆出 省 1938～

福井県生まれ。北美文化協会に所属。芸術運動に参加。1956年福井県総合美術展にて教育委員会賞、翌年同展知事賞を受賞。1978～82年まで一陽展に出品。1984～94年まで福井県立美術館にて個展、1987年埼玉県立近代美術館にて個展、他福井県、埼玉県等にて個展を中心に作品を発表。

人間性の解放、魂の自由の表現を目指している。

（平成元年度購入）



⑦

### 《拡大する方位》 1989年

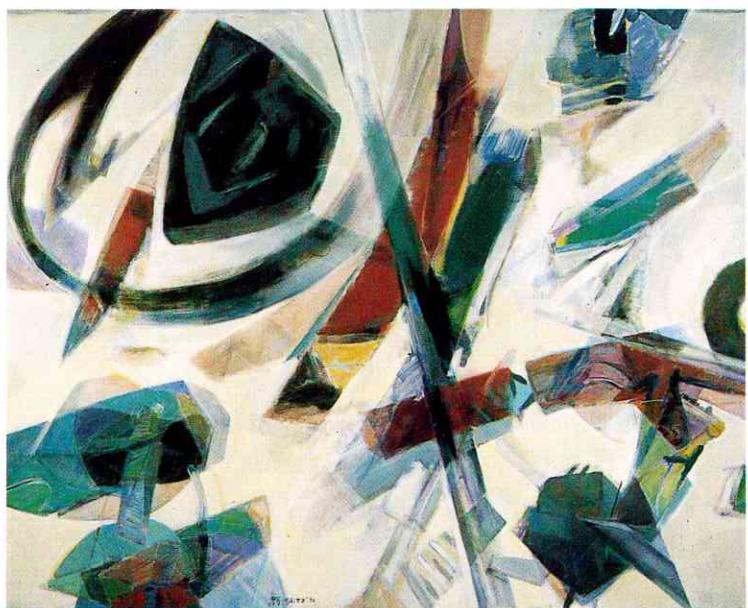
樹脂系絵具・キャンバス 181.8×227.3

斎藤 輝昭 1942～

福島県生まれ。武蔵野美術大学に学ぶ。卒業制作でパリ賞を受け、1970年に渡仏。以後15年滞在。その間、サロン・ド・トーヌ展などに出品。版画5点がパリ国立図書館に収蔵される。

日々の出来事、四季折々の自然からイメージをもらい制作している。見る人に刺激や安らぎを、そして、「元気になるような絵を」と、心掛けている。

（平成元年度購入）



⑧

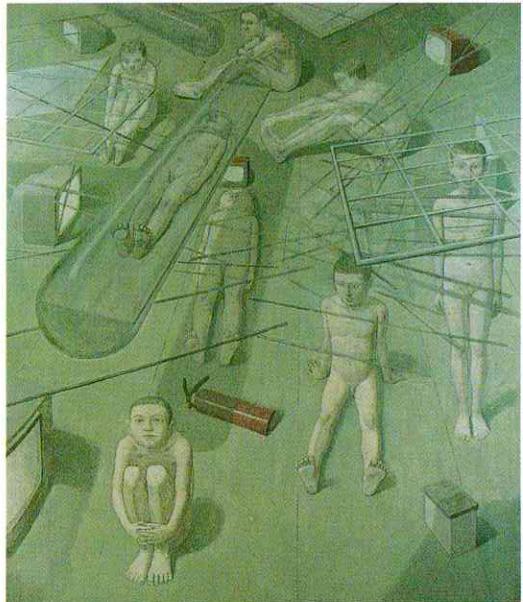
《人間のいる風景》 1989年  
油彩・キャンバス 194.0×162.2

柏 健 1936～

宮城県生まれ。東京芸術大学油画専攻科（伊藤廉教室）修了。1963年度フランス政府給費留学生として渡仏、パリ国立美術学校（レーモン・ルグー教室）へ2年間在籍。帰国後1967年より国画会出品、1972年会員推挙。国際形象展、安井賞展、明日への具象展、現代の視覚展などに出品。

理念は不安がつきまとつて現代に生きる人間のイメージの表現。

(平成元年度購入)



⑨

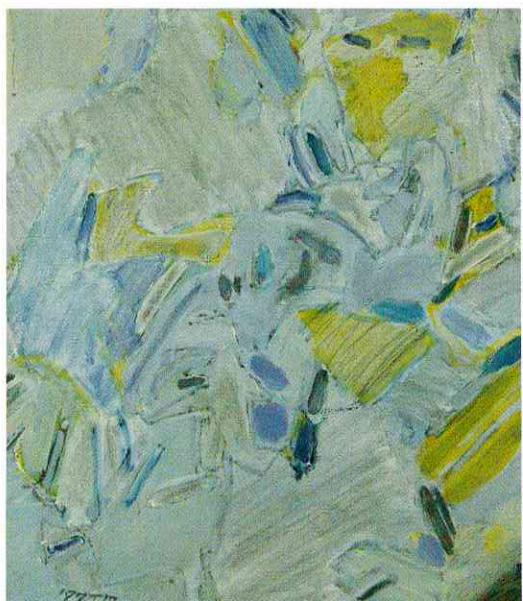
《春・舞う》 1987年  
樹脂系絵具・キャンバス 52.8×45.5

丸山 武男 1935～

東京生まれ。寛永寺坂美術研究所に学ぶ。1957年自由美術展に初出品。大野五郎、井上長三郎を知る。又、アトラン、ポロックの作品に接し抽象画を試みる。1970年ポーランド世界美術シンポジウムに参加、ヨーロッパの大自然にふれ、その後、自然と心象の一体化を進める。

制作の理念は、不規則で柔軟な抽象画。現在、自由美術協会会員。

(平成3年度購入)



⑩

《稻荷山の坂道》 1990年  
油彩・キャンバス 71.8×60.0

相場のぼる 1948～

秋田県生まれ。独学。1975年より油絵開始、1988年美術の祭典東京展にて東京展賞受賞、1989年日仏現代美術展にてロイユ賞受賞、1991年より名栗湖国際屋外展に毎年出品。現在に至る。

個人的には、哺乳類人科として存在できるたった一つの媒体としてアートを意義づけ、自分自身の可能性にトライし続けている。

(平成3年度購入)



⑪

《南風の吹く午後》 1991年

彩色・紙 53.0×72.5

平林 知之 1953～

福島県生まれ。東京芸術大学日本画科を卒業。春期創画展、埼玉県展知事賞受賞、全国県展選抜展文部大臣賞受賞、大三文明展奨励賞受賞、日本青年館優秀賞受賞。その後公募展へは出品せず個展を中心に活動する。

静寂でやわらかな詩的画風は確かなデッサンと叙情性の調和による。けれどやけにはけしさの無い良質な美意識をめざす。

(平成3年度購入)



⑫

《富士》 1990年

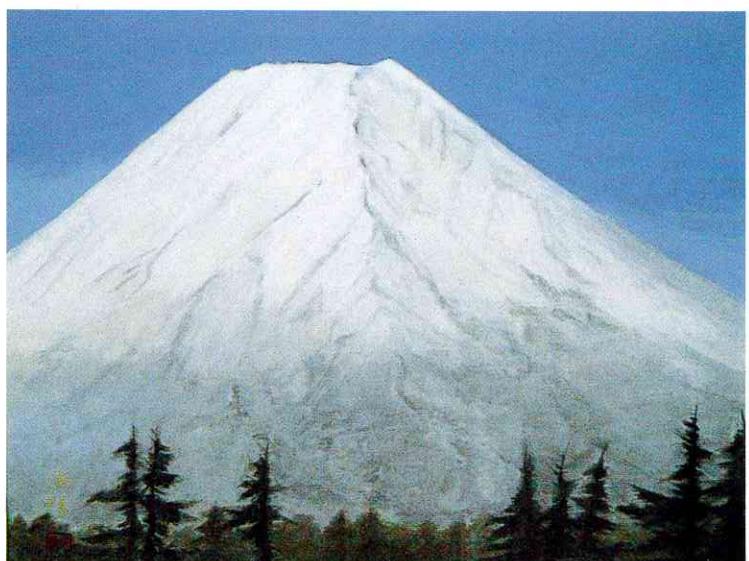
彩色・紙 40.0×52.5

黒川 瑞枝 1928～

東京生まれ。昭和30年代東京で日展森正元より日本画を学ぶ。1972年狭山に移住。日展中野蒼穹に師事する。埼玉県展に出品入選、以来20回入選。

日本画は戦後油彩まがいの変革期を経てまた現在伝統的な装飾性の上に新しい作画を試みることが多くなった。この様な作画を模索中。現在、埼玉県美術家協会会員。狭山市美術家協会会員。

(平成3年度購入)



⑬

《花と少女》 1991年

彩色・紙 72.0×60.0

松下 久子

佐賀県生まれ。女子美術大学日本画科を卒業し、新興美術院展に出品し入選、会員となる。大和絵の流れに続く日本画で、和紙に岩絵具で描く。この作品は、墨と金泥を使い、色をおさえて表現した。これからも昔からある材料のおもしろさを追求して行きたいと思う。

(平成3年度購入)



⑭

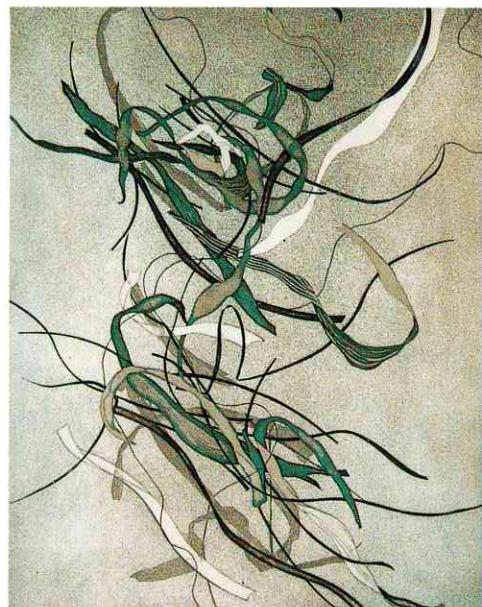
### 《そよぐ》 1976年

版画・紙 50.7×40.7

た しろ あや こ  
田代 純子 1943～

福岡県生まれ。佐賀大学特設美術科に学ぶ。  
福岡県下の高校で講師をした後、渡仏。「ア  
トリエ17」にて、W. S. ヘイターに師事し、  
一版多色刷りの版画を学ぶ。ニース図書館、  
カーン美術館、パリ国立図書館に収蔵される。  
自然のもの、主に植物の持つ柔らかさを素材  
にして、静かな動きと、広がりのある作品を  
作るようにしている。

(平成3年度購入)



⑮

### 《聖祭》 1990年

版画・紙 36.0×36.0

あお き てる お  
青木 照雄 1927～

東京生まれ。

現在美術系大学では版画科設置の学校もふえ、  
版画への関心も高いが、以前は版画作家との  
交流、又は独学によるしかなかった。私のケ  
ースは作家瑛九との出会いによる。1981年、  
埼玉県展で油彩に伍して版画作品が初めて取  
り上げられ受賞（NHK賞）以来、CWAJ  
現代版画展、第63回新構造展にて文部大臣賞  
等を受賞。

(平成3年度購入)



⑯

### 《スペクトラルボックス '91》 1991年

ミクストメディア・紙 41.7×55.7

あい だ かず お  
相田 一夫 1937～

東京生まれ。

我が青き日に、人民選書ピカソ（吉井忠編）  
と出会い、絵を描きゆく意味（よりヒューマンな立場）に触れ、武蔵野美術学校・研究所  
等で油彩画を学ぶ。自由美術展を中心に制作  
活動を続け、版画を手がけることで表現の幅  
を拡げ、多角的視点から自己実現を目指す。  
1991年自由美術協会を退会。後、個展中心に  
発表活動を続けている。

(平成3年度購入)



⑯

《鶴》 1931年

樟 高さ 64.5

三木 貞夫 1909～1987

福岡県生まれ。1927年山崎朝雲に入門。22歳日本美術協会展に「鶴」を発表し銅賞を受賞。24歳第14回帝展初入選、以後文展、日展と入選し、第8回日展にて「蒼芒」が特選を受賞。朝倉賞無鑑査となる。1959年日展を退会し創型会に同人として迎えられる。1960年仏教美術協会に参加。1976年「ナーガル・ジュナ」を発表。晩年は題材を仏教、古事由来に求め制作した。

(平成4年度購入)



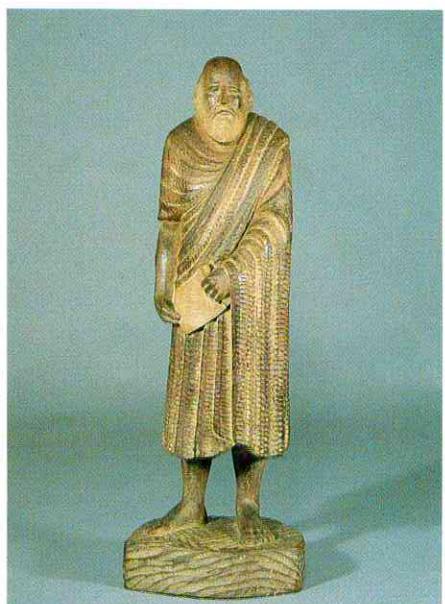
⑰

《ナーガル・ジュナ》 1976年

樟 高さ 79.0

三木 貞夫 1909～1987

(平成4年度購入)



⑱

《風っ子》 1991年

ブロンズ 高さ 70.0

新国 美津 1930～

北海道生まれ。1955年から20年間、新制作協会会員、本郷新に師事し、同展に出品を続けるほか、故新国孝雄の郷里、福島県展、会津若松展に協賛出品、戦時中を過ごした北海道全道展会員として出品も続けている。

都内から、はじめて狭山へ住居を移した時などらかな茶畠の、目にしみるような縁と、さわやかな風が強く印象的であった。この心の躍動とも言えるものを何とか彫刻に表現してみたいと考え続けていたが、思い切って単純化した形の中に、その一部を造形化してみた。

(平成3年度購入)



②〇

## 《膨張する六面体》 1989年

白御影石 高さ 120.0

水村 昭 1932～

埼玉県生まれ。1958年東京芸術大学彫刻科卒業。1975年所沢市山口観音金乗院鐘楼に天井画制作。1989年国民文化祭さいたま'89さきたま緑道に石彫設置。1994年埼玉県立近代美術館での個展までに、日仏現代美術展、国際美術家協会展、埼玉県展等グループ展に出品を続ける。

制作の理念——自然の成せる造型と私の造型との合体。

(平成2年度購入)



②①

## 《連鎖運動膜(内的な水辺)》 1977～94年

銅 高さ 150.0

橋本 真之 1947～

埼玉県生まれ。東京芸術大学工芸科を卒業。在学中に鍛金技術を学ぶ。以後金属による鍛金作品を制作発表。

この作品は1977年に制作が開始され、発表を重ねながら次第に展開し、成長して来たのである。狭山市立博物館前庭に設置されて、作者の手を離れたが、今度は傍らのケヤキの成長によって、その空間の変様を待っている。

(平成5年度購入)



②②

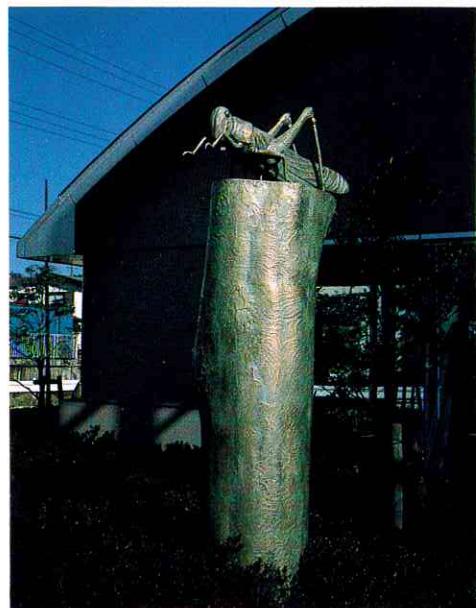
## 《地殻の外側》 1993年

F R P (強化プラスチック) 高さ 230.0

重村 三雄 1929～

鹿児島県生まれ。神戸市立美術教室で4年間基礎を学ぶ。1967年頃まで平面作品を発表。シェル美術賞展他で受賞。1973年頃から立体造形に移る。独自のカタメタージュ技法を駆使してリアリズム（スーパー）の作品を制作。J A F (ジャパン・アート・フェスティバル) 展でグランプリ受賞。彫刻の森美術館、日本現代彫刻展（宇都宮）他に招待出品し、受賞などする。全国各地で公共彫刻作品を制作している。

(平成5年度購入)



23

### 《象嵌壺》 1987年

陶芸(象嵌)・陶土 高さ 43.0 径 40.0

植松 隆 1948～

埼玉県生まれ。手ほどきを日戸光雄に受け、その後益子系陶技を学ぶ。以後独学。1984年伝統工芸新作展入選を初め、日本伝統工芸展、中日国際陶芸展、日本陶芸展、朝日陶芸展に入選を果たす。その間埼玉県展で4回特選、現在埼玉県展で審査員も務める。

日本の陶芸の伝統を認識しつつ、今を再認識し、現代にあった焼きものづくりをめざす。

(平成3年度購入)



24

### 《〆焼扁壺》 1990年

陶芸・信楽土 高さ 36.7

清水 正博 1931～1994

愛媛県生まれ。京都芸術大学彫刻科に学ぶ。辻晋堂教室で陶彫を学び、京都という地の利を生かし、登り窯で、平らな面、厚い肉付けで、幾何学的構成で、二紀展に出品する。電気窯になってから、陶土を選び、板作りの造形で、壺を作り、狭山市美術家協会展に出品する。

(平成3年度購入)



25

### 《私のまち》 1990年

ブロンズ 高さ 19.5

小泉 力雄 1938～

東京生まれ。東京芸術大学金工科卒業。日本ジュエリーデザイナー協会、日本クラフトデザイン協会会員。ブロンズ、金、銀、真珠等を素材として室内用品、装身具等のデザインと制作。

素材の持ち味を出来るだけ引きだせたらと思っている。

(平成3年度購入)



26

### 《森を吹く風に》 1989年

鉄、銅、銀、真鍮 30.0×30.0

安宅 千咲 1944～

兵庫県生まれ。1966年東京芸術大学美術学部工芸科卒業。1968年同大学院彫金専攻修了。卒業制作で「サロン・ド・プランタン賞」を受賞。1968年日展出品。1971年女性工芸グループ「環」展に参加、現在に至る。又、グループ37展、金工二人展他に出品。

自然の中にいて自分の内面に感じる「何か」をカタチにしていきたいと思う。

(平成3年度購入)



27

### 《80年代A家の肖像》 1989年

コラージュ・皮革 162.0×162.0

植野 瑛子 1935～

和歌山県生まれ。15歳で独立展初入選。東京芸術大学油絵科に学ぶ。1958年小磯教室を卒業。数回独立展に出品するが中断。1975年より3年間アメリカのロサンゼルスに在住。ジョウ・マニアーニに師事。帰国後再び独立展に出品。1988年頃より革のコラージュを始める。銀座スルガ台画廊にて油絵個展2回、革のコラージュ展(個展)は3年に1回開催を続けている。

(平成元年度購入)



28

### 《あした》 1991年

木工着色料・厚紙 34.0×39.0

伊藤 壱 1921～

新潟県生まれ。看板画工、印刷版下画工を経、専らフリーのデザイナーとして新聞雑誌広告、公共団体広報ポスター、出版編集などの分野のデザインの制作に携わる。画業は独習。本作品の素材は主として廃品の厚紙を貼り合わせ、木工製品の着色料またはペンキにより彩色する工芸的手法によるもので、作者は「ペーパーレリーフ」と呼んでいる。

(平成3年度購入)

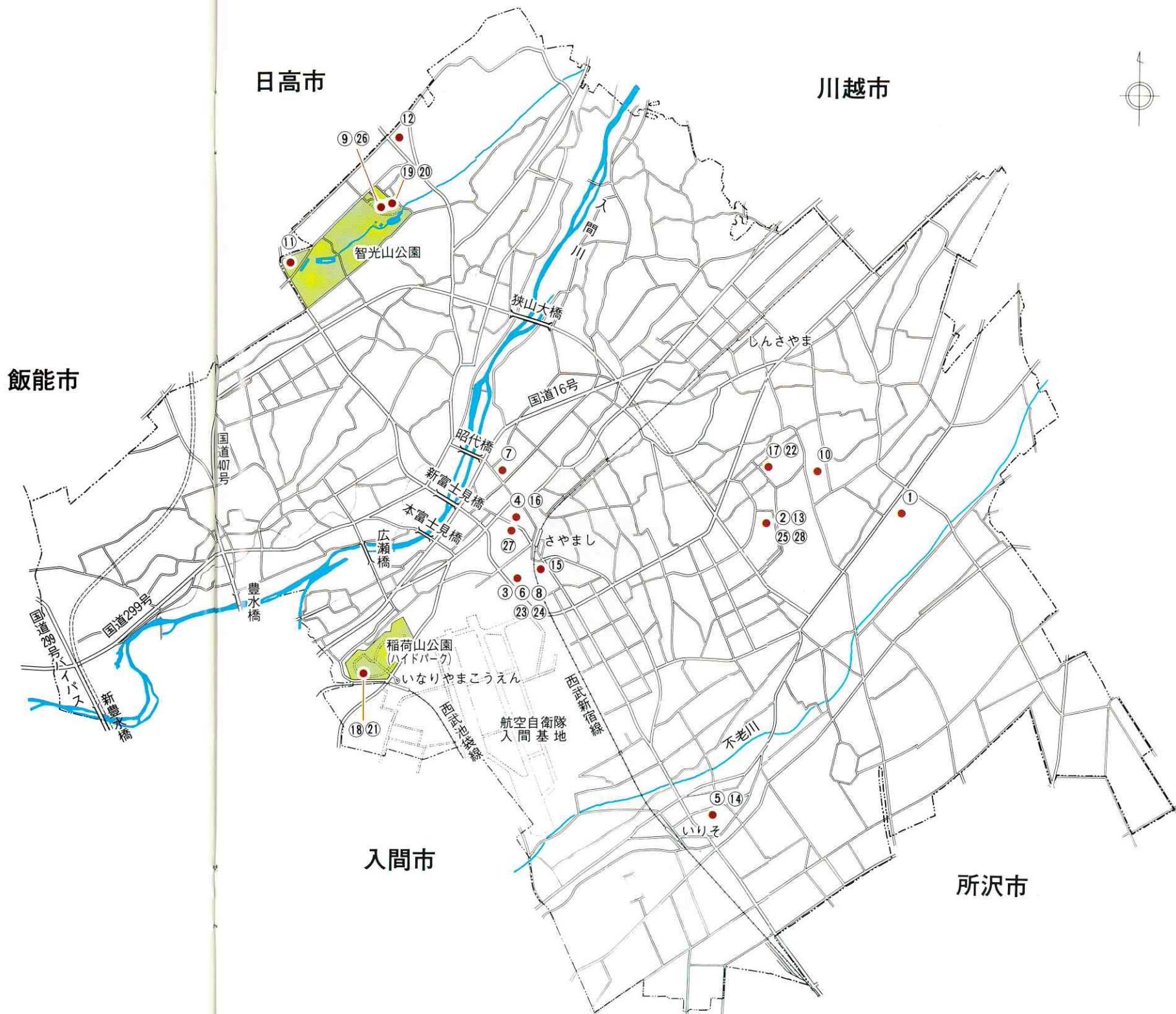


## 展示位置図

## 展示作品一覽

番号	分類	作品名	作者名	展示場所
①	洋画	雪どけ	小椋 均	農村環境改善センター ロビー
②	洋画	遠い世界からの報告	胡 項城	教育センター 1階ロビー
③	洋画	入間川の秋	倉本 勝巳	市役所 4階第2応接室
④	洋画	水都“サンジョルジヨ・マジョーレ島”	清水 照子	消費生活センター 応接室（中央図書館5階）
⑤	洋画	望郷	柏 敬子	入曾乳児保育所 1才児室
⑥	洋画	アメリカ村の猫たち	盆出 省	市役所 3階議場ロビー脇
⑦	洋画	拡大する方位	斎藤 輝昭	市民会館 小ホール入口階段壁
⑧	洋画	人間のいる風景	柏 健	市役所 1階北側出入口壁
⑨	洋画	春・舞う	丸山 武男	老人福祉センター（宝荘）ロビー
⑩	洋画	稻荷山の坂道	相場のばる	老人福祉センター（寿荘）ロビー
⑪	日本画	南風の吹く午後	平林 知之	智光山荘 大広間
⑫	日本画	富士	黒川 瑞枝	軽費老人ホーム柏苑 ロビー
⑬	日本画	花と少女	松下 久子	教育センター 2階ロビー
⑭	版画	そよぐ	田代 純子	入曾乳児保育所 玄関フロア
⑮	版画	聖祭	青木 照雄	富士見集会所 階段上
⑯	版画	スペクトラルボックス'91	相田 一夫	消費生活センター 相談室（中央図書館5階）
⑰	彫刻	鶴	三木 貞夫	狹山台図書館、体育館・プール 2階事務室横
⑱	彫刻	ナーガル・ジュナ	三木 貞夫	博物館 2階ロビー
⑲	彫刻	風っ子	新国 美津	都市緑化植物園 催物広場
⑳	彫刻	膨張する六面体	水村 昭	都市緑化植物園 芝生広場
㉑	彫刻	連鎖運動膜（内的な水辺）	橋本 真之	博物館 館庭
㉒	彫刻	地殻の外側	重村 三雄	狹山台図書館、体育館・プール 正面玄関前
㉓	工芸	象嵌壺	植松 隆	市役所 4階ロビー
㉔	工芸	〆焼扁壺	清水 正博	市役所 4階第3応接室
㉕	工芸	私のまち	小泉 力雄	教育センター 1階ロビー
㉖	その他	森を吹く風に	安宅 千咲	老人福祉センター（宝荘）ロビー
㉗	その他	80年代A家の肖像	植野 瑛子	中央公民館 2階ロビー
㉘	その他	あした	伊藤 亘	教育センター 2階ロビー

※展示場所は、今後変更する場合があります。





# 狹山市立博物館

〒350-13

狹山市稻荷山1-23-1 稲荷山公園(ハイドパーク)内  
TEL. 0429-55-3804(代表) FAX. 0429-55-3811